

琉球大学学術リポジトリ

1960年1月の安保条約改定時の朝鮮半島有事の際の 戦闘作戦行動に関する「密約」に係る調査関連文書 No.4

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-15 キーワード (Ja): 朝鮮半島有事, ロジャース国務長官 キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43880

C

C



88

概
秘

次在

通海事務所

半島北半島

北半島長 ザレン事務所 取扱の件

42.6.29
北半島長

29日 北島に於て、在り半島長とザレン事務所と
懇談せられたる旨あり。

ザ— 沖繩北島長に於て29日午内の海濱は
研究に及ぶか。半島長といふ通運問題は

付、日本政府が承認するに及ぶかを以て知り
たいと思つてあり。承認がなされれば

どう対応すべきかを準備したわけを以て
したい。

本在— 従来日本政府は通運を公的から管理した
ことではないが、この問題は最早いつ迄も通運

し得ずと思ふ。通運問題を政府自ら取り上
ることを承認する。近く外務大臣より、大決に

GA-4

(218)

外務省

北島に載せたいと思つてゐる 沖繩通運長
と海軍省、地域協会の関係が適用されることと

北島 地域協会の諸条件は之を半島の
半島長とし、問題に及ぶには承認

指導事項の問題、特に核の問題であり
と思つてゐる。この点については現在はいさ

検討して来ている。

ザ— 半島長に及ぶと核の問題より、ヤマト

義助作戦司令部の基地使用の方から
問題のよすに思つてゐる。核は實際に使う

ことを考へてゐるのではなく、又假令一
次核があると云ふことになれば、何等の

考慮と共に「あくには核がある」と云ふこと
だけのことにはあつた(7)ことも考へられ

GA-4

外務省

3が 親衛隊の活動は現に日々行われ
 ていることあり、危えず人の目を惹きつ
 け子性愛のものがある
 本庄— 秋方の見るとこの日は核兵器は打つ
 従軍の事情からして 軍事協力の重要事項の中
 4 核の問題が最もむづかしいところ
 実際には使用する号がなく 又配備する計画が
 ないにしろ、李土と同じく軍事協力の対象
 とするコミットメントはそれとは別問題のよう
 に思ふ 親衛隊の活動も予備内閣がある
 3が 各角 互道と云う方向に合意してこ
 るの問題を研究することになり
 が— 作中の至急に外務大臣は「其他の自衛使用
 を含む全面互道」を「不完全な互道」と云は

3が その様な互道が実現すればは
 本庄は、¹ 以上は、その地帯にある
 (親衛隊の親衛隊より)
 終なき結果に、² 接する点と云う議論が
 3がは、³ あり、半例から見れば、互道
 性には、日本政府から、⁴ 以上の互道
 が、親衛隊の活動は止めてくれと云う
 4— 2に、なるのを、最も、⁵ 危険がある
 本庄— 3がの、問題を、今の、⁶ 状況で、
 5— 1に、あるか、⁷ 3がから、軌道に、⁸ せと、
 互に、⁹ 検討すること、¹⁰ 考へて、¹¹ 3が、
 が— 今迄、¹² 沖縄でも、互道が、¹³ 実現し、¹⁴ 得た
 の、¹⁵ として、¹⁶ 3が、¹⁷ 2は、¹⁸ ない、¹⁹ 3が、²⁰ 互に
 互道、²¹ する、²² 2と、²³ なる、²⁴ 1は、²⁵ 互に、²⁶ 反動が、²⁷ 出
 2が、²⁸ と思は、²⁹ 3が、³⁰ 互道に、³¹ なる、³² 段階に

順次に示した中絶に付ける反応を見れば
敢て進めようとする方が少いのではないか

思

本質 - いさぐち反応とは経済的効果の

が - 経済的のみではない

本質 - 進退と去ることでの経済的ならぬ

大分は中絶するがそれ以外余りあるか
い反応などよりなるか、何れにせよ

進退と去ることとは如何なる段階から
去るか、自給に含ませない、自給拡大

本質 - 経済的の措置は大いに進めよう
たか、進退自給付一帯に1が行うこと

あ

が - 或る種のものを示して中絶の人達

いさぐちの相違、準備の期間を与えたい方の
ではないか

本質 - 進退は3年、5年或は10年などの期限
を附けた事では ~~今並に打ち出す~~ 意味がないと思ふ

附ける期限の時の情勢を判断し、又それ
は - 特長とし、進退も事なかれに示すこと

あ、然る方は中絶をすく返せと ~~さ~~
のではない、御承知の如く日中の半は

平和裏に、反動感情、換算に、尋ねいさぐち
なつかしい事情があり、先が如何なる条件か

進退が可能であるかには半断と推測し、
その中絶の意向を確かめ ~~切~~ なが

進退実現に持て行く必要がある、その作業
を軌道に乗せなければならぬと尋ねる

がある。
 一 最近の航空機に内蔵記録機は従来はなかった
 がこれは今秋の修理済機に備え、これは
 右の如く航空機の修理を減少しようとする
 意があるが
 本館 - 航空機の修理を減少しようとする
 ことは何れも、今後修理の減少の
 ための必要設備的なものである。今後
 修理の減少が在るかどうかが知らないが
 航空機は今迄修理の削減の管にかかれば
 航空機のようなものであつた。軍事的価値
 ありとの誤解はない。これは早速修理
 設備はなすべく固るのがある。
 一 航空機に軍事的価値がない訳ではない

軍事航空機の基地を日本本土並みの
 基地では出来ないような使い方をいふこ
 ともある。
 本館 - 施設整備等を改善する程の軍事
 的価値ありと云ふ誤解は無いこととし
 一 国務省の報告は勿論、海軍でも中
 経、工島、母島を基地に視察した人は殆
 ど「品がす」問題があるが、下層の報告は
 依然として得ないのは事実であるが、軍
 事は依然強い立場を占める。之を互に
~~本館 - 半島は平野部路上の権利であるが~~
~~少しの価値があるが保持するの必要~~
 する云ふことには存心。既成事実から出発
 して、互量の処理は何かと云ふことを考

入るに得ない

本一 米側は平和争議上の権利であり

少しの価値があるから施設権保持は当然なりとの主張であらうか 然るは本意

を置かぬべきものであるから余程の理屈新たして施設権を保持するはinjurious

なりと考へてのほきせり。米國の向來も平和争議上の権利を握りわすこととは

止めざるを得ない

ザ一自らは明日から他事を待たずに譲ること

にまつていふが 前任前に仲換小室の
問題についての報告をまとめている。